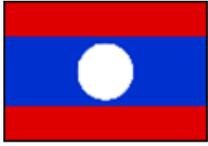




支援地域のご紹介

国情報



ラオス人民民主共和国

東南アジアに位置する内陸国。人口の60%を占める低地ラオ族のほか49の民族が暮らす。人口の60%は仏教徒(上座部仏教)でアニミズムの影響も強い。公用語はラオ語。5月～10月は雨期。1953年にフランスから独立後、内戦を繰り返し、1975年にラオス人民民主共和国が成立。長期にわたり政治的・軍事的に不安定だったため人材の国外流出が起き、経済開発が遅れています。



ラオス人民民主共和国
出典: 外務省

地域情報

サバナケット県タパントン郡・パランサイ郡



支援期間: 2016年～2021年*

*支援期間や活動内容は、予期しない突発事項やプログラムの進捗状況により、変更される場合があります。

首都のビエンチャンから南東に約550キロ(車で約10時間)の場所に位置するサバナケット県タパントン郡とパランサイ郡で、皆さまのご支援により事業を行います。支援地域には、低地ラオ族のほか、丘陵地ラオ族、高地ラオ族が暮らしています。これらの民族の中には公用語のラオ語以外の言語を使用する人々もいます。ラオスの中でも特に貧しい地域で、交通の便が悪く、基本的な通信インフラも未整備です。住民の多くは農民で、米や野菜、バナナなどの栽培で生計を立てています。タイとの国境に近いので、タイへの出稼ぎで収入を得ている世帯も少なくありません。

地域の課題



政府の予算不足で学校の校舎は老朽化しています



食料の安定確保

- 収穫量が少なく、年間を通じて **十分な食料を得られない**世帯が多い
- 農耕以外の **生計手段が限られている**



教育

- 学校の **設備、教材、教師の不足**
- 貧困や **教育の重要性への理解不足**のため **通学できない**子どもたちが存在



支援地域の住居の様子



食料の安定確保

灌がい設備が普及しておらず、雨水に依存した農業が行われているため、乾期には作物が枯れてしまい、1年を通して食料を安定して得ることが困難です。頻繁に起こる干ばつや作物の病気、農機具や技術の欠如も収穫量に影響しています。農業以外の収入源も限られています。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 米や裏作用作物の種子の提供と技術指導
- 家庭菜園の促進
- 小規模ダムや灌がい設備の設置支援
- 家畜飼育の技術指導と家畜の提供
- 村落開発基金の運営指導



米の種子を提供し収穫量の増加を支援します



教育

5年間の義務教育を受けられる学校が近くにないため、遠くまで通学している子どもが少なくありません。多くの校舎は老朽化・破損しており、机・イスなどの備品や教科書、教材・教具も十分ではありません。教師の数が少なく、最新の知識を学ぶ機会もないため、教育の質に課題があります。貧しさから継続的に就学できない子どももいます。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 教具・教材の提供
- 地域の人々と保護者に対する教育についての啓発活動
- 読書推進のため、学校に図書室や読書スペースを設置
- 学校のトイレと手洗い場の設置
- 保健・衛生に関する啓発活動



子どもたちが継続的に質の高い教育を受けられるよう支援します



支援は人々の生活を変える力となります

ラムトンちゃんの両親は農業を営んでいますが、収穫は少なく、3人の子どもたちに年間を通じて十分な食料を与えるのが難しいほどの貧しい暮らしをしていました。

しかし、ワールド・ビジョンから、乾期でも栽培できる作物の種子と農業の研修を受けた両親は、新しい作物の栽培を始めました。この結果、十分な食料が得られるようになり、栽培した野菜を販売して現金収入を得ることもできるようになりました。収入は子どもたちの学用品や通学用自転車の購入にあてられ、両親は貯金も始めました。ラムトンちゃんは学校の先生になるという夢を持って、一生懸命勉強しています。

ワールド・ビジョンは、ラムトンちゃんのような子どもたちが希望を持って成長できるように、支援活動を行っています。